

博士論文の要約

博士論文題目：神戸南京町 50 年の民族誌的研究——包摂的チャイナタウンの生成と変容

著者：辺 清音

研究目的

本論文の目的は、まちづくりと店舗の経営活動を通して、神戸南京町がどのような主体によっていかなる過程でチャイナタウンとして再開発されてきたのか、また南京町と関わる人々がどのように自分たちの日常的な経験を用いてそこを再構築してきたのかを明らかにするものである。そのうえでチャイナというエスニックな側面とタウンというローカルな多様性の相互関係を解明する。

本論文において、チャイナというエスニックな側面とは、華僑の直接的/間接的な自己表象、およびホスト社会が持つ華僑や中国に対するイデオロギーのことを指す。南京町の人々の間では中華らしさとも称する。また、タウンという地理的な側面は、チャイナタウンと呼ばれる領域とそれが所在する都市のことを指し、歴史的、地域的な文脈に埋め込まれたローカルな多様性を含む。

先行研究と問題意識

日本と欧米におけるチャイナタウンに関する先行研究は、主として 2 つのパラダイムに分けられる。1 つはチャイナタウンを華僑コミュニティとして捉え、華僑にとっての社会的、経済的、文化的機能や意義に基づいてチャイナタウンを定義するものである [バーゼス 1972 (1925) ; Yuan 1963 ; Zhou 1992 ; 奥田 1995 ; 大橋 1997 ; 張 2007 ; 山下 2010 ; Tan 2013 ; Yamashita 2013 ; 王 2014 etc.]。もう 1 つはチャイナタウン=華僑コミュニティという考え方を廃し、チャイナタウンをホスト社会の華僑、あるいは中国に対するイデオロギーの地理的投影の空間と見なすものである [Anderson 1987 ; Ealham 2005 ; Chuang and Trémon 2013 ; 川瀬・吉元 2013 etc.]。

この 2 つのパラダイムは、いずれもチャイナというエスニックな側面に重点を置き、世界各地のチャイナタウンを対象に研究成果をあげてきた。一方で、タウンという歴史的、地域

的な文脈に埋め込まれたローカルな多様性、およびチャイナとタウンの相互関係を十分に検討する研究は寡聞にして見当たらず、課題として残っている。

研究視座

こうした課題に取り組むため、本論文はチャイナというエスニックな側面とタウンというローカルな多様性を同時に考慮する視座から、南京町の事例を考察する。具体的には、空間の社会的生産と空間の場所化という 2 つの概念を用いて議論を進める。まず、本論文では、空間とは、政治経済的な目的を達成するために特定の表象が付与され、イデオロギーが埋め込まれ、人為的に仕立て上げられて、資源化された領域である [ルフェーヴル 2000 (1974) ; 河合 2013] と定義する。チャイナタウンの場合、空間の社会的生産は、タウンという歴史的、地域的な文脈に埋め込まれたローカルな多様性が政治経済的な目的に従って取捨選択され、チャイナというエスニックな側面に収斂されていく過程である。

一方、空間の場所化は、個々人がチャイナタウンならではのエスニックな側面を意識したうえで、自分なりの意義を付与し、場所として社会的に構築する動的な過程である。ここで言う場所とは、「アイデンティティ付与的、関係的、歴史的」 [オジェ 2002 (1994) : 244] 、脱領域的な概念である [インゴルド 2014 (2007) : 155-166] 。

調査地概要

南京町は、元々、神戸開港と共に、居留地の周辺にある雑居地で形成され、華僑が集まった職住混合の国際的な市場であった。日中戦争の影響による華僑の帰国や戦後日本の不況などの要因で一時荒れ果て、日本の高度経済成長や観光ブームという背景の中でチャイナタウンとして再開発されてきた。

現在の南京町は、中華らしさという日本人にとっての異国情緒を売り出す商店街である。全域には、200 軒ほどの店舗や事務所がある。象徴的な建築物や、中国の伝統的な祝日を祝うイベントも充実している。

調査概要

筆者は 2015 年から 2019 年まで合計約 25 カ月にわたる予備調査、本調査と補足調査を通して、民族誌的資料を収集してきた。2016 年 6 月から 2018 年 4 月までは、神戸市内に住み込

みの形で、本調査を実施した。現地調査は日本語、中国語と広東語で行った。文献調査、参与観察と聞き取り調査を通して、南京町の人工環境、イベントおよび店舗の経営活動について、情報を収集した。それ以外、南京町の全店舗の悉皆調査を行った。

本論文の構成

本論文は、序論とそれに続く6つの章、および結論の合計8章から構成される。

第1章では南京町の歴史と現状を概観したうえで、1970年代から1980年代半ばまで企画、実施された南京町商店街環境整備事業を整理した。1970年代の日中友好の背景の中で、神戸市、元町地区で商業に従事する人々と、地元住民を代表する南京町商店街振興組合という多様な主体が、地域の経済的振興のため、区画整理の地理的範囲で、道路や象徴的な建築物など中華らしい人工環境を整備した。このように整備された南京町は、当時の日本人が持つ中国に対するイメージに呼応して社会的に生産された空間である。

第2章では、南京町商店街振興組合が、神戸市や近隣の商業組織などの協力を得ながら、春節祭を創り出して発展させてきた過程を明らかにした。春節祭の創出と年中行事化によって南京町の中華らしさは強化され、観光化が進んできた。春節祭を企画し実行してきた約30年間、チャイナというエスニックな側面をめぐる様々な自己表象と他者表象が錯綜する中で、組合の経営者たちと春節祭にかかわる人々は、南京町に対してローカルな帰属意識を持つようになった。

続けて第3章では、人工環境、イベント、店舗の経営という3つの側面から、南京町のグルメ街のイメージを詳らかにした。具体的に、南京町観光案内板への中華料理店に関する情報の明記、食のイベントにおける本格的な中華料理の提供、および中華料理店の看板や軽食屋台における中華料理の見せ方という事例を考察した。そこから、中華料理をめぐる日本人のステレオタイプなイメージに寄り添いながら、経営者たちは本格的な中華料理を探求し提唱するという南京町のグルメ街のイメージを明らかにした。

以上の内容を受けて第4章は、中華飲食店の2店舗を事例として取り上げ、店舗の歴史を追いつつ、店主家族の日常的な経営活動と経営戦略に関して厚い記述を試みた。2つの事例からは、エスニック・ビジネスが南京町の再開発とともに発展し、中華らしさを絶えず作り出し、南京町のチャイナというエスニックな側面を強化し続けることが明らかになった。他方、エ

スニック・ビジネスから派生した地震被災地支援のイベントや国境を越えた都市間の往来から、南京町が持つ開放性も検討した。

第5章は第4章の中華飲食店と比較し、南京町全体で比率の高い他の業種の店舗について記述した。これらの店舗に焦点を当てることで、経営者の間で見られる南京町の占有と管理をめぐる葛藤、彼らの南京町の境界意識の曖昧さ、および新商品開発による多様性の生成を考察した。そのうえで、南京町はチャイナというエスニックな側面において均質的、不変的なのではなく、雑多で重層的であることを明らかにした。

第6章では、南京町生誕150年記念事業の全過程を参与観察し、神戸市観光施策の変化の中で同事業の企画運営組織の設立と役割、およびイベント内容から見た南京町と神戸という地域社会の連携を論じ、両者の関係性を考察した。南京町組合は、神戸市、観光、産業、商業に従事する人々という多様な参加者とともに、南京町生誕150年に関するイベントを創り出し実行するために、人員やアイデア、観光資源を共有した。その結果、南京町では中華らしさと神戸らしさの融合が生じ、南京町以外の神戸各地域では中華らしさの浸透も起こったことを指摘した。

以上の内容から、本論文では4点を結論としてまとめた。

第1に本研究では、1970年代から約50年間にわたる南京町の変遷と近年の状況を整理し、特に人工環境の整備、イベントの創出、店舗の構成と経営の実態について民族誌的な厚い記述を行った。

第2に、南京町は包摂的なチャイナタウンであることを論じた。南京町は異なる時代に開業し、それぞれの経営戦略を持つ多様な業種の店舗が併存する雑多な観光地、商店街である。また、中華伝統芸能や中華料理を中心とする創造された「伝統的な」年中行事と、神戸や日本というホスト社会の出来事に対応して新たに創り出されたイベントが開催される舞台でもある。つまり、南京町はチャイナというエスニックな側面を強化しながらも、決してそれ以外の要素に排他的ではなく、タウンという歴史的、地域的な文脈に埋め込まれたローカルな多様性を取り入れた包摂的なチャイナタウンであると結論付けることができた。

第3に、南京町は地域社会に根ざして、それと共進化していることを指摘した。南京町は長い歴史の中で神戸市、市内の観光・地域諸団体や関連企業との間でネットワークを構築したことにより、中華らしさと神戸らしさが矛盾することなく融合する場所となってきた。神戸市は南京町を重要な観光資源として捉え、南京町の実態とイベントの創出・維持に経済

的かつ人的に深く関与してきた。神戸市のこうした働きかけは、南京町を超えたネットワーク形成に関わり、神戸の他の文化要素が南京町に流れ込む開放性や多様性をもたらしたのである。

第4点の結論は、南京町におけるチャイナとタウンの結合である。本研究はチャイナというエスニックな側面に焦点を当ててきた先行研究を踏まえ、南京町にエスニックな側面が付与されてきた空間の社会的生産と再生産の過程を明らかにした。そのうえで、それとタウンという歴史的、地域的な文脈に埋め込まれたローカルな多様性の相互関係の解明を試みた。南京町の経営者は、チャイナタウンならではのエスニックな側面を受容し、内面化して自らの経験と一体化させている。職住分離が進む一方で、彼らは店舗の経営、イベントの開催、地震などの出来事の経験を通して、南京町を歴史的、地域的な連続性と多様性を有する場所に構築している。その結果、南京町は異なる人々にとっての多様な意味のある、脱領域的な場所となっている。それは、本研究でいう空間としてのチャイナタウンが人々の行動によって場所化されていく過程である。そうした中で、南京町におけるチャイナというエスニックな側面と、タウンという歴史的、地域的な文脈に埋め込まれたローカルな多様性とが結合したと論じた。

参考文献

日文文献

インゴルド、ティム

- 2014 (2007) 『ラインズ——線の文化史』 (Ingold, Tim, *Lines: A Brief History* 工藤晋訳) 東京：左右社。

大橋健一

- 1997 「エスニック・タウンとしての『神戸南京町』——地域の磁力と都市エスニシティの動態」 奥田道大 (編) 『都市エスニシティの社会学——民族／文化／共生の意味を問う』 京都：ミネルヴァ書房 75-87 頁。

奥田道大

- 1995 「都市的世界・コミュニティ・エスニシティ——アメリカおよび日本の大都市におけるエスニック・コミュニティの変容と再編」 奥田道大 (編) 『コミュニティとエスニシティ——21世紀の都市社会学』 東京：勁草書房 1-43 頁。

オジェ、マルク

2002 (1994) 『同時代世界の人類学』 (Augé, Marc, *Pour une anthropologie des mondes contemporains* 森山工訳) 東京：藤原書店。

河合洋尚

2013 『景観人類学の課題—中国広州における都市環境の表象と再生』 東京：風響社。

川瀬理由・吉元菜々子

2013 「仮構としての池袋チャイナタウン——池袋北西エリアをめぐる表象の諸相」 伊藤眞『多文化都市と新相互行為圏 (NIZ) の形成——新しい「国際移動研究センター」構築にむけた研究』 (平成22年度—平成24年度首都大学東京傾斜的研究費研究成果報告書) 77-95頁。

張玉玲

2007 「観光地『中華街』の形成と発展からみる日本人と華僑が試みた『共生』」 『愛知淑徳大学論集——コミュニケーション学部・コミュニケーション研究科篇』 7: 163-176。

バーゼス、E. W

1972 (1925) 「都市の発展——調査計画序論」 パーク、R. E・バーゼス、E. W他著『都市——人間生態学とコミュニティ論』 (Park, Robert. E, Burgess, W. Ernest and Roderick D. Mckenzie, *The City*, Chicago: The University of Chicago, 大道安二郎・倉田和四生訳) 東京：鹿島出版会 49-64 頁。

山下清海

2010 『池袋チャイナタウン——都内最大の中華街の実像に迫る』 東京：洋泉社。

ルフェーヴル、アンリ

2000 (1974) 『空間の生産』 (Lefebvre, Henri, *La Production l'espace*, 斎藤日出治訳) 東京：青木書店。

中文文献

王维

2014 《华侨的社会空间与文化符号：日本中华街研究》 广州：中山大学出版社。

英文文献

Anderson, Kay J.

- 1987 “The Idea of Chinatown: The Power of Place and Institutional Practice in the Making of a Racial Category,” *Annals of the Association of American Geographers*, 77(4): 580-598.

Chuang, Ya-Han and Anne-Christine Trémon

- 2013 “Problematizing ‘Chinatown’: Conflicts and Narratives Surrounding Chinese Quarters in and around Paris,” *in* Wong, Bernard P. and Chee-Beng Tan (eds.) *Chinatown around the World: Gilded Ghetto, Ethnopolis, and Cultural Diaspora*, Leiden and Boston: Brill Publishers, pp. 187-214.

Ealham, Chris

- 2005 “An Imagined Geography: Ideology, Urban Space, and Protest in the Creation of Barcelona’s ‘Chinatown’, c.1835-1936,” *International Review of Social History*, 50(3): 373-397.

Tan, Chee-Beng

- 2013 “Chinatowns: A Reflection,” *in* Wong, Bernard P. and Chee-Beng Tan (eds.) *Chinatown around the World: Gilded Ghetto, Ethnopolis, and Cultural Diaspora*, Leiden and Boston: Brill Publishers, pp. 263-284.

Yamashita, Kiyomi

- 2013 “Ikebukuro Chinatown in Tokyo: The First ‘New Chinatown’ in Japan,” *in* Wong, Bernard P. and Chee-Beng Tan (eds.) *Chinatown around the World: Gilded Ghetto, Ethnopolis, and Cultural Diaspora*, Leiden and Boston: Brill Publishers, pp. 247-262.

Yuan, D. Y.

- 1963 “Voluntary Segregation: A Study of New Chinatown,” *Phylon*, 24(3):255-265.